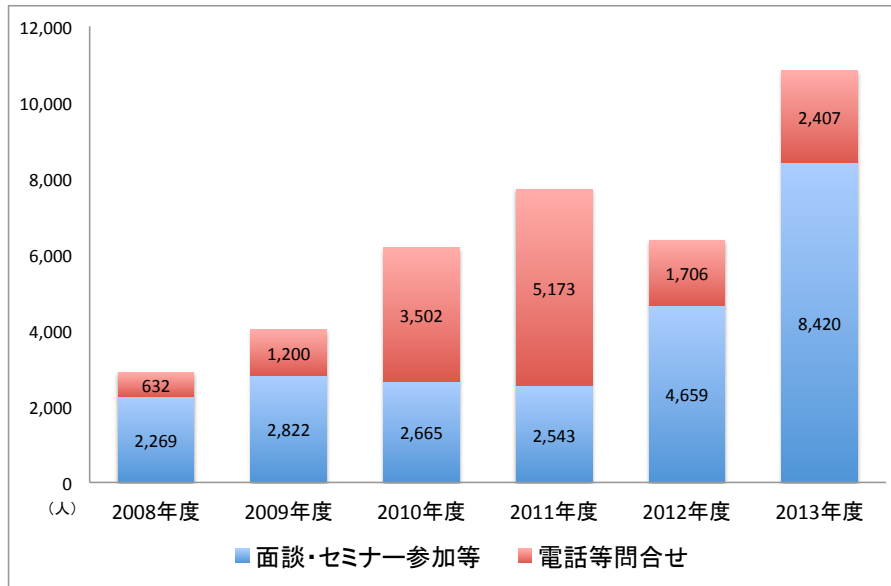


「ふるさと回帰の現状と課題」

特定非営利活動法人 100 万人のふるさと回帰・
循環運動推進・支援センター
副事務局長 嵩 和雄

急増する田舎暮らし相談者

センターへの相談件数が 2008 年度の 2,901 件から約 3.7 倍の 10,827 件に。かつてない盛り上がりだが、移住先が定まっていない漠然とした移住希望者も増加。(ネットから情報入手できない層)



※ 2010年度、2011年度の電話等問い合わせの増加は内閣府補助事業
(6次産業起業支援事業)へのエントリー・問合せ数を含むため

| | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 面談・セミナー参加等 | 2,269 | 2,822 | 2,665 | 2,543 | 4,659 | 8,420 |
| 電話等問合せ | 632 | 1,200 | 3,502 | 5,173 | 1,706 | 2,407 |
| 合計 | 2,901 | 4,022 | 6,167 | 7,716 | 6,365 | 10,827 |

移住相談件数の推移 (ふるさと回帰支援センター・東京)

NPO ふるさと回帰支援センターのこれまでの活動

- 2002 年:NPO を設立(法人登記:2003 年4月)
- 2005 年:移住相談業務を開始(東銀座オフィス)
- 2005 年:ふるさと回帰フェア初開催・東京(以降毎年開催。2008 年からは大阪でも開催)
- 2009 年:大阪事務所の開設(2010 年にシティプラザ大阪に移転)
- 2012 年:有楽町に東京オフィスを移転・増床

主な業務内容

- 田舎暮らし希望者への相談業務、会員自治体の移住情報発信業務
- 各種田舎暮らし・移住セミナーの開催(年間約 120 回の移住セミナー・相談会開催)
- 情報誌「100万人のふるさと」の発行(年 4 回)
- ふるさと回帰フェアの開催(本年度で 10 年目)
- 和歌山県ふるさと定住センター運営業務
- 都市と農山漁村の交流・移住実務者研修セミナーの開催(2006 年より毎年開催)
- 各省庁、全国の自治体、団体・大学などからの移住・定住に関連する受託業務

移住・定住の現状

団塊世代の移住・・・2007年問題から2012年問題へ

高齢者雇用安定法の改正施行（2006年）

団塊世代が再雇用制度によりそのまま企業に残る（大量退職問題の先送り）

（2012年からはじまり、今後2-3年がそのピーク）

・・・「高齢者を受け入れてくれる自治体があるのか？」という相談も。

若者世代・・・20代～30代の動き

リーマン・ショック後の田舎志向（1995年くらいから先駆者の若者が各地に）

国の施策の変化…地域への人的支援へ（2008年：田舎で働き隊（農水省）、2009年：地域おこし協力隊（総務省）等）

東日本大震災に直面し、既存の価値観が目の前で崩れた

・・・「より良い生き方」「他者との繋がり」を求めて地方へ

フロンティアとしての農山村（地方に可能性を求めて）

ボランティア後の承認欲求（自分を必要としてくれる地域に）

ファミリー層・・・東日本大震災以降に増加

子育てを行う上での安全、安心な地域を求めて（食の安全、自然災害の安全）

30代から40代の子育て世代が増加

・・・九州・中四国を含む西日本への動き（希望地ランキングに反映）

○ 移住希望地は働き場重視の地方都市と子育て環境重視の農山村の二極化

＜移住希望地ランキングの推移＞

2009年

| 県名 | |
|-----|------|
| 1位 | 福島県 |
| 2位 | 長野県 |
| 3位 | 千葉県 |
| 4位 | 茨城県 |
| 5位 | 山梨県 |
| 6位 | 北海道 |
| 7位 | 福井県 |
| 8位 | 山形県 |
| 9位 | 静岡県 |
| 10位 | 秋田県 |
| 11位 | 和歌山県 |
| 12位 | 栃木県 |
| 13位 | 岐阜県 |
| 14位 | 岩手県 |
| 15位 | 宮城県 |
| 16位 | 富山県 |
| 17位 | 新潟県 |
| 18位 | 宮崎県 |
| 19位 | 群馬県 |
| 20位 | 埼玉県 |

N= 788

2010年

| 県名 | |
|-----|------|
| 1位 | 福島県 |
| 2位 | 長野県 |
| 3位 | 千葉県 |
| 4位 | 岩手県 |
| 5位 | 山形県 |
| 6位 | 茨城県 |
| 7位 | 宮城県 |
| 8位 | 山梨県 |
| 9位 | 静岡県 |
| 10位 | 宮崎県 |
| 11位 | 北海道 |
| 12位 | 秋田県 |
| 12位 | 岐阜県 |
| 12位 | 大分県 |
| 15位 | 栃木県 |
| 16位 | 福井県 |
| 17位 | 鹿児島県 |
| 18位 | 群馬県 |
| 18位 | 和歌山県 |
| 20位 | 富山県 |

N= 775

2011年

| 県名 | |
|-----|------|
| 1位 | 長野県 |
| 2位 | 福島県 |
| 3位 | 千葉県 |
| 4位 | 茨城県 |
| 5位 | 岩手県 |
| 6位 | 大分県 |
| 7位 | 富山県 |
| 8位 | 熊本県 |
| 9位 | 秋田県 |
| 9位 | 宮崎県 |
| 11位 | 新潟県 |
| 12位 | 栃木県 |
| 12位 | 山梨県 |
| 12位 | 鳥取県 |
| 15位 | 石川県 |
| 15位 | 岡山県 |
| 15位 | 鹿児島県 |
| 18位 | 山形県 |
| 19位 | 群馬県 |
| 19位 | 岐阜県 |
| 19位 | 静岡県 |

N= 406

2012年

| 県名 | |
|-----|------|
| 1位 | 長野県 |
| 2位 | 岡山県 |
| 3位 | 福島県 |
| 4位 | 香川県 |
| 5位 | 千葉県 |
| 6位 | 島根県 |
| 7位 | 大分県 |
| 8位 | 鳥取県 |
| 9位 | 宮崎県 |
| 10位 | 和歌山県 |
| 11位 | 山形県 |
| 12位 | 高知県 |
| 12位 | 鹿児島県 |
| 14位 | 滋賀県 |
| 15位 | 山梨県 |
| 16位 | 埼玉県 |
| 17位 | 愛媛県 |
| 18位 | 熊本県 |
| 19位 | 栃木県 |
| 19位 | 山口県 |

N= 1017

2013年

| 県名 | |
|-----|------|
| 1位 | 長野県 |
| 2位 | 山梨県 |
| 3位 | 岡山県 |
| 4位 | 福島県 |
| 5位 | 熊本県 |
| 6位 | 高知県 |
| 7位 | 富山県 |
| 8位 | 群馬県 |
| 9位 | 香川県 |
| 10位 | 鹿児島県 |
| 11位 | 栃木県 |
| 12位 | 新潟県 |
| 12位 | 山口県 |
| 14位 | 島根県 |
| 15位 | 大分県 |
| 16位 | 茨城県 |
| 17位 | 石川県 |
| 18位 | 福井県 |
| 19位 | 千葉県 |
| 19位 | 北海道 |

N= 1642

※ 基本的に20位までの情報を一般公開。アンケート母数の関係もあり、ランキング下位の場合は数人の希望でランクが上下しますので、順位そのものは参考情報として判断ください。

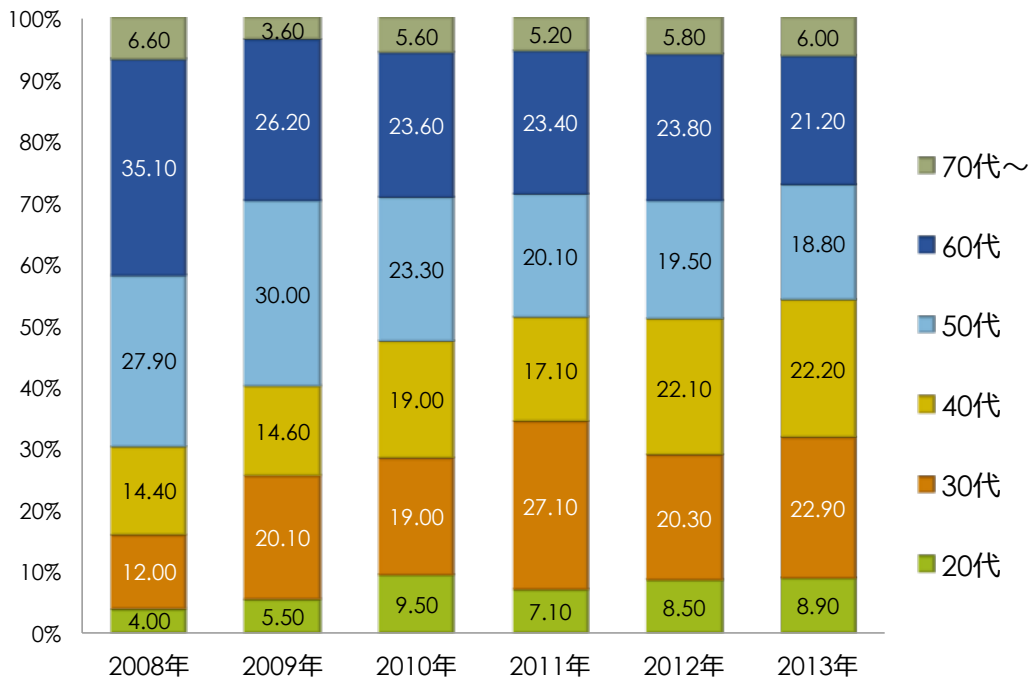
※福島県は2011年以降徐々にランキングが下がっているが、会津地方への根強いファンがいるほか、定期的に相談会を開催しているため、復興支援としての移住希望もあり、未だに上位に留まっている。

移住希望者のニーズと不安要素

移住・定住を阻害する 2 つの課題

- 住居：急増する地方の空き家 VS 借りたいけど借りられない都市住民
- 心理的ハードル（知らない人に貸したくない、貸し出す抵抗感）
 - 金銭的ハードル（大家として住宅の改修費用が出せない）
- 仕事：一次産業の担い手不足 VS やりたい仕事がないというミスマッチ
- 「仕事」はあるが「職場」がない

＜センター来場者の年齢構成の推移＞



2008年のリーマン・ショック以降、若者の相談が増加

田舎暮らしをしたいが地方に仕事が無い・・・仕事がなければ創ってしまおう。

2009年：「ふるさと起業塾」の立ちあげ

“都市における雇用よりも、農山漁村における生業（なりわい）起しを”

（NPOふるさと回帰支援センターと北海道大学観光学高等研究センターの協力で設立）

「田舎で働き隊」（農水省）事業を使っての定住支援（定住するための生業おこし指導）

2010年：「地域社会雇用創造事業」（内閣府）での「農村六起」（農村の六次産業起業人材育成支援事業）・・・「農業」の六次産業化でなく、「農村資源」の六次産業化（担い手の多様化）100名の起業家の輩出と3000名の実地研修者（インターンシップ）を養成。

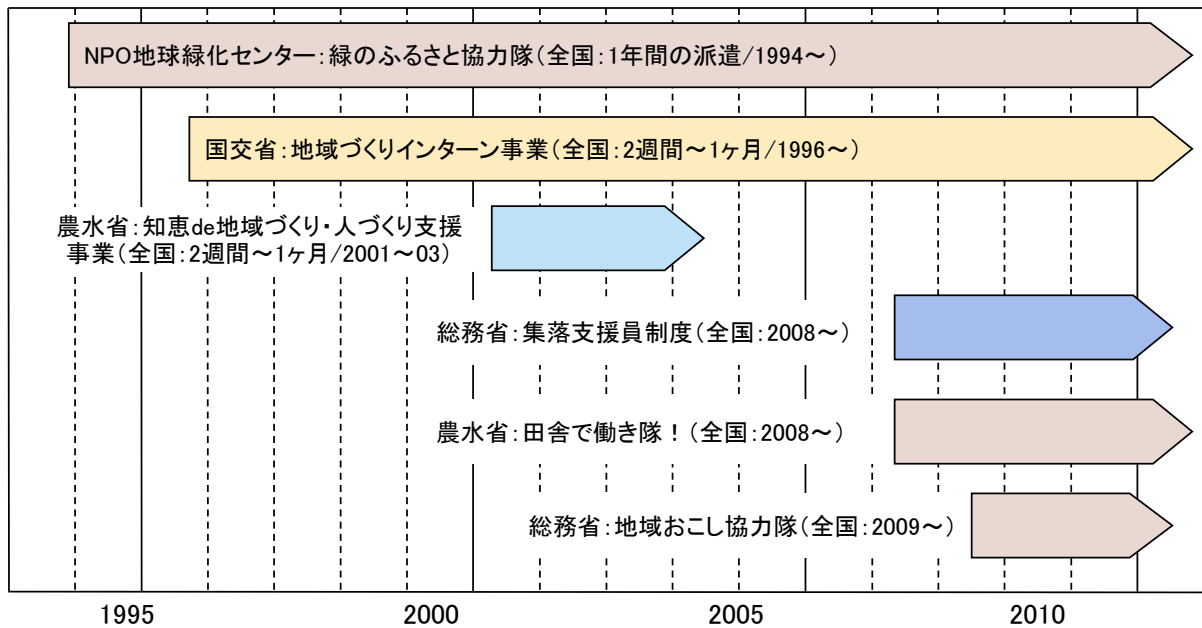
「小さい生業から地方の小さい経済を循環」・・・自己雇用と地域の雇用拡大へ

2012年：「復興支援型地域社会雇用創造事業」（内閣府）

被災地および被災者の避難先での起業支援・・・生活再建には「仕事づくり」から95名の起業家の輩出と406名の研修生を養成。

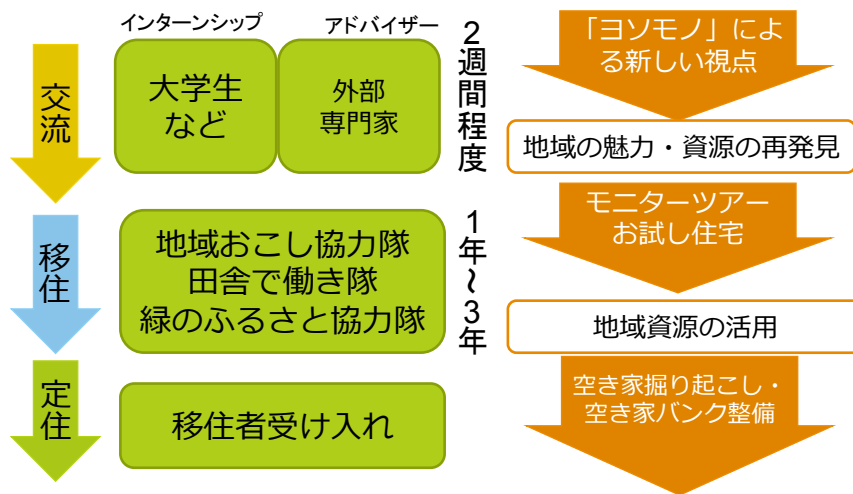
交流から定住へ

<若者が地方に直接関わる諸制度>



(佐久間・筒井作成資料に嵩加筆)

<地域の取り組みの成熟度に応じた人材とその活用方法を整理>



移住者受け入れの重要なポイント

- 地域を知ってもらう
 - 観光、グリーン・ツーリズムとの連携 (きっかけづくり)
- 地域内での合意形成 なぜ移住者受け入れが必要なのか
 - どんな人に来て欲しいのか
 - 住宅を貸す・地域にヨソモノが入る際のルールづくり
 - ◇ 組入りの場合等 (暗黙のルールではなく、覚え書き、申し合せ書に)
- 官・民の協同による 受け入れ体制の整備 (行政との役割分担)
 - JA、商工会、先輩移住者、地元NPO、社協など
 - 休日・祝日の相談対応 (道の駅などの利活用)
 - 移住後の丁寧なサポートが定住に

移住者受け入れにあたっての課題

移住先探しの段階

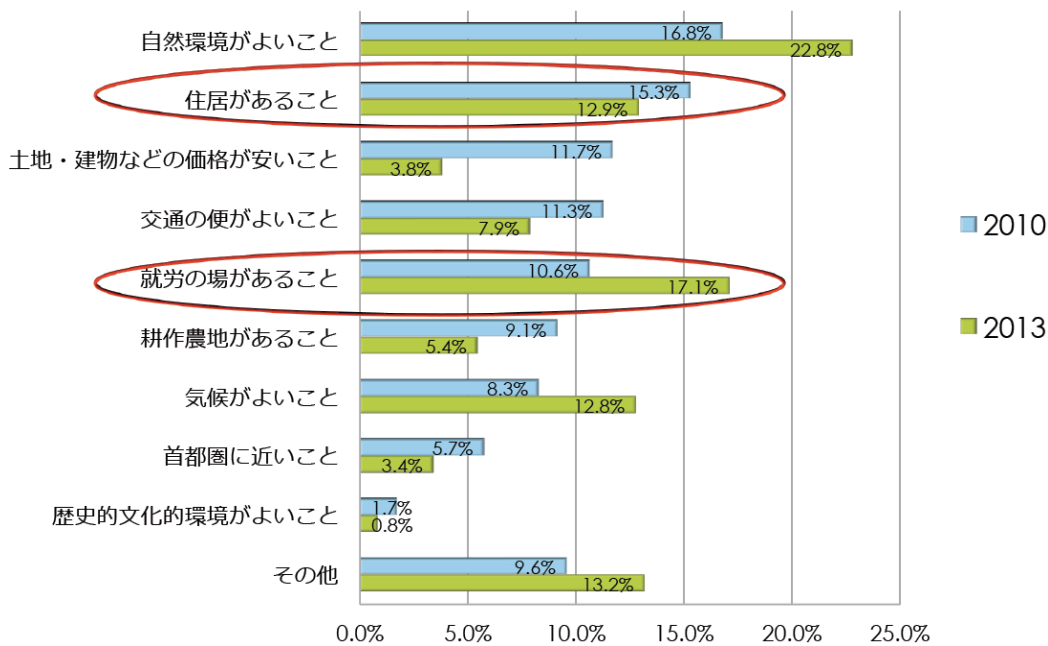
- ・ 移住体験住宅（お試し住宅）が旅館業法の規制にかかる（簡易宿所と見なされる）

移住先決定後の課題

- ・ 空き家バンク等に登録されている住宅に付随する農地の取り扱い（農地法の規制）
- ・ 公営住宅への応募時の保証人の問題（自治体内に居住する連帯保証人がいない）

移住者に「選ばれる地域」とは

移住地選択の条件（優先順位）



- ・ 移住者が集まってくる元気な地域には・・・

- 「住民」「地域での取り組み」に共感して移住した人
 - ◇ この人と一緒にやってみたい、技を学びたい etc
- 「魅力的な暮らし」をしている人のまわりに集まる
 - ◇ ライフスタイルを見せる情報発信が効果的

※ 移住者を選ぶ自治体が移住者に選ばれる

- 若者に人気の「徳島県神山町」「島根県海士町」（人的魅力「ワクワク感」）
 - 地域のビジョンが明確（ターゲットを絞り込み）

- ・ 縮小型地域社会に向けた新しい展望を

- 人口を増やす議論の見直し・・・「誰でもいい」からターゲットを絞った募集
 - ◇ 交流人口も数ではなく質
- 企業誘致から起業家誘致、生業づくりへ
 - ◇ 兼業推奨とワークシェアリング…「半農半X」（新しいスタイルの兼業農家）
 - ◇ 地域の仕事の継業（「リノベーション起業」）事業だけでなく、「想い」を継ぐ。

【参考】移住者受け入れに取り組む自治体では

- ・ **島根県**【県だけでなく「ふるさと島根定住財団」と各自治体が多面的な取り組み】
 - 県内自治体が「移住支援コーディネーター」を配置
 - 東京での過疎地の 7 つ高校の合同説明会・・・110 名の参加者
 - 市町村別のオススメ定住プラン(100 プラン)
- ・ **和歌山県**【田舎暮らし応援県わかやま推進協議会】
 - 移住相談を一元的に行うワンストップ・パーソンを配置
 - 「移住起業支援事業」県内に移住して起業する人への起業支援金を提供
 - 「和歌山県ふるさと定住センター」の開設: 県の山村産業試験場跡を活用、定住に関する相談、山村体験研修実施。定住者を対象に、各体験研修の実施や農林産物の栽培技術相談も実施。(2009 年から NPO ふるさと回帰支援センターが運営受託)
- ・ **和歌山県紀美野町**(きみの定住を支援する会)
 - ◇ ワンストップでの定住相談窓口の設置、
- ・ **和歌山県日高川町**(ゆめ倶楽部21・・・事務局は日高川役場内)
 - ◇ ワンストップでの定住相談窓口の設置
 - ・空き家等の地域情報の収集、定住前の短期滞在の支援
 - ◇ 空き農地も移住者へ貸し出す仕組み(特定農地貸付法の活用)
- ・ **富山県**【くらしたい国、富山推進本部】
 - 定住コンシェルジュの配置
 - 「世界遺産に住まんまいけプロジェクト」による移住者の受け入れ。
 - ◇ 南砺市が空き家を改修し、世界遺産に1万円で住めるというキャッチフレーズで、移住者を全国公募。国内外から 54 組が応募し、茨城県の 30 代のご家族(4 人家族)が当選。その他選外の 2 家族も移住希望があり、近隣の集落が空き家を提供し、同条件(家賃 1 万円)で移住。
- ※ 南砺市(過疎地に指定)は移住促進を一体的に図るため、本年4月から「南砺で暮らしません課」を設立し、定住・婚活・空き家対策を一体的に進めている。
- ・ **山梨県**
 - 有楽町の NPO ふるさと回帰支援センター内に「やまなし暮らし支援センター」を開設、専属の移住相談員と山梨労働局から派遣の就職支援ナビゲーター、県労働局から派遣の就職相談員を置き、ワンストップでの移住相談を実施。
- ・ **長野県飯山市**
 - 飯山市ふるさと回帰支援センター(いいやま住んでみません課内に設置)
 - 空き家適正管理条例を移住セクションが管轄・・・空き家の有効活用→空き家バンクへの情報提供
 - ・ すこしだけいいやま・・・一時滞在
 - ◇ 飯山まなび塾(年 4 回:2 泊 3 日): 春夏秋冬の飯山暮らしを体験
 - ◇ 百姓塾(年 7 回:1 泊 2 日): 農業体験から移住を考える
 - ・ たっぷりいいやま・・・長期滞在
 - ◇ 田舎民宿等での素泊まり滞在プラン: 民宿と連携: 長期滞在割引チケット
 - ◇ お試し田舎暮らし体験ハウス: お試し住宅での居住体験: 2 週間 2 万円～
 - ・ 本気で定住・・・住宅支援
 - ◇ 空き家バンク 宅地建物取引業協会と連携、中古住宅等の情報提供
 - ◇ 支援 住宅建設、中古住宅取得補助等